

観光社会資本の事例

テーマ	名古屋港のシンボル名港トリトン
【施設の状況写真】	
	
<p>名古屋港のシンボルとして名古屋港に悠然と聳え立つ名港トリトンは、世界的にも屈指の規模を誇る斜張橋で、遊覧船のコースになるなど、観光客も多い。名古屋港の玄関口にふさわしく主塔の色はトリコロールカラーに塗り分けられ主桁は連続性を考慮し、白色に統一されている。また、夜はライトアップされ、名古屋港を幻想的に演出している。</p>	
【施設の利用写真】	
	
<p>遊覧船から195mの主塔を見上げ、そのスケールの大きさを体感する観光客。</p>	<p>遊覧船のコースになっており、ライトアップされた素晴らしい眺めを楽しむことができる。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>伊勢湾岸道路の名港トリトンは、名古屋港の各埠頭間をつなぐことにより港湾関係者の利便性向上に寄与すると共に、広域的・多面的な効果をもたらした四日市～豊田を結ぶ伊勢湾岸自動車道の一部を構成している。観光面でも名港トリトンは、名古屋港の玄関口として、遊覧船のコースになるなど、観光スポットとしても評判となっている。</p>	

テーマ	名古屋港のシンボル名港トリトン
【社会資本の基礎データ】	
名称	名港トリトン (伊勢湾岸道路の斜張橋3橋(名港東大橋、名港中央大橋、名港西大橋))
所在地	愛知県東海市・名古屋市港区・飛島村
事業名	伊勢湾岸道路
事業主体	日本道路公団
事業期間	昭和54年12月7日～平成10年3月30日
【社会資本の役割・効果】	
直接効果 名港トリトンのような高速道路等を利用することで、一般道路の利用と比べ、地域間の移動時間が短縮される等の時間短縮や事故の減少、走行便益などが向上。	
間接効果 名港トリトンは、豊田～四日市を結ぶ伊勢湾岸自動車道の一部を構成することから、一般的に下記のような効果がある。 高速道路利用による輸送時間の短縮で、買い物圏や観光・レジャー等の行動可能範囲が広がったり、様々な生活機会が増大。 必要な原材料の調達、製品の輸送等を容易にすることから、高速道路のIC付近には多くの生産・商業施設が立地し、商業活動が活発。 災害発生時の迂回・代替輸送経路にもなり、安心な暮らしを支援。 高速道路を利用することで、一般道の交通量が減少し、沿道の環境改善に寄与。	
【位置図】	
	
【関連ホームページ】 みなとめぐり遊覧船 (名鉄海上観光船) http://www.meikaijo.co.jp/ ((有)シーガルジャパン) http://www.seagull.gr.jp/minatomeguri/index_minatomeguri.html	